

H27年度 男女共同参画セミナー

夫婦・カップルのための

マナー&ライフプラン

平成27年11月14日(土)



キラッ☆とよた

共働き世帯が専業主婦世帯を上回る昨今、家計を取り巻く制度も変わりつつあります。税制や年金制度などちょっと難しい制度も図を交えた分かりやすい説明で学び、つぎに2人のライフイベント表を作成して支出が増える時期といつが貯め時かを各家庭でイメージをしてみました。参加者からは「家計運営を考えるきっかけになった。今後の参考にします」との感想が多く寄せられました。

さらに、資産運用の話やふるさと納税の仕組みなどの気になる話題もあり、今回の講座で学んだことをぜひ、お二人の大切なお金に活かしていただきたいと思います。

■実施日時 平成27年11月14日(土) 午前10時～正午

■場所 キラツ☆とよた 情報交換室

■目的 共働き世帯数が専業主婦世帯数を上回り、それを受けて家計を取り巻く様々な制度が変わろうとしています。時代の流れや新しい制度についての情報を素早くキャッチし、共働きのメリットを活かしたこれからの働き方を見つけます。自分たちのライフイベントに合わせたスタイルでワーク・ライフ・バランスを実現しつつ、夫婦・カップルがお互いを支え合う男女共同参画社会を目指します。

■受講者 6組10名

■講師 ひろえFP社労士事務所 代表 廣江 淳哉 氏

■内容

《ライフプラン編》

☆人生の3大資金を知る

～教育費、住宅取得費(住宅ローン)、定年後生活費(年金)～

【教育費】

幼稚園から大学までの教育費を、公立の場合と私立の場合とに分けながら総額を試算をしてみる。

教育資金の準備をするためには学資保険を利用するのが良い。

【住宅取得費】

住宅予算の考え方として家族構成と他の支出とのバランスに注意する。

可処分所得(いわゆる手取り給与)と住宅ローン返済額の割合は2割程度が適切

・住宅ローン返済総額が決まる4つのポイント

	A頭金1,000万円	B全額融資
①金利	1.2%	1.6%
②借入金額	2,600万円	3,600万円
③返済期間	20年	35年
④返済方法	元金均等返済	元利均等返済
総返済額	2,913万円	4,704万円

A支払総額 1,000万円+2,913万円=3,913万円
支払総額の差は791万円になる

B支払総額 4,704万円

・住宅ローンの返済期間を考える

例)3,000万円を元利均等返済、全期間固定金利1.6%で借入期間が20年、25年、30年、35年で借りた場合はどうなるか。

借入期間20年

毎月返済額	総返済額
146,147円	約3,508万円

借入期間25年

毎月返済額	総返済額
121,395円	約3,642万円

借入期間30年

毎月返済額	総返済額
104,981円	約3,779万円

借入期間35年

毎月返済額	総返済額
104,981円	約3,779万円

※住宅ローンの借入期間は1年ごとに設定が可能なので、1年でも短く設定することをお勧めします。

【定年後生活費】

総務省「家計調査年報(家計収支編)平成26年」

世帯主の年齢階級1世帯当たり1か月間の消費支出によると60～64歳世帯では258,584円の支出(住居と自動車関係の費用を除く)がある。

国民年金(基礎年金)は満額で78万円

厚生年金などその他の年金を合わせた将来受け取れる額を知るには「ねんきん定期便」で知ることができる。「ねんきん定期便」2-(2)これまでの加入実績に応じた老齢厚生年金額)

☆ライフイベント表

参加者各自がライフイベント表に家族の年齢とイベント計画を記入し、その表から今後、支出が増える時期と貯蓄に向いている貯め時をイメージしてみた。

《マネープラン編》

☆家計改善&家計管理のコツ

【収入】

共働き世帯が増え、配偶者控除の見直しが検討されていることを踏まえて、あらためて所得と税制・社会保険料の仕組みについて学んだ

- ・所得税の計算方法
- ・所得とは？
- ・配偶者控除とは？
- ・「収入の壁」103万円について
- ・「収入の壁」130万円について
- ・新たにできる「収入の壁」106万円について

平成28年10月～適用 短時間労働者への社会保険適用拡大

【支出：FPひろえ流・我が家の家計管理術】

- ・固定支出を見直す
- ・“生活費財布”を作る
 - ①“生活費財布”を作る！
 - ②1か月の上限を設定する！
 - ③お金を入れたら光熱費相当額は二つ折りにする！
 - ④クレジットカードを使ったら“生活費財布”からお金を抜く！
 - ⑤残ったお金はパーッと使う！
- ・年間予算を決める

【貯蓄】

確実に貯められる貯蓄の思考とは

$$\text{収入} - \text{貯蓄} = \text{支出}$$

【資産】

現在100円の物が10年後も100円で購入できるとは限らない。

- ・物価が上がるインフレのリスク
- ・資産は分散投資するのが良い……イギリスの格言『一つのかごにすべての卵を盛るな。』
- ・金融商品の特性を知り、何のための資金として貯めるか考慮して選択する

《最近話題のこんな制度》

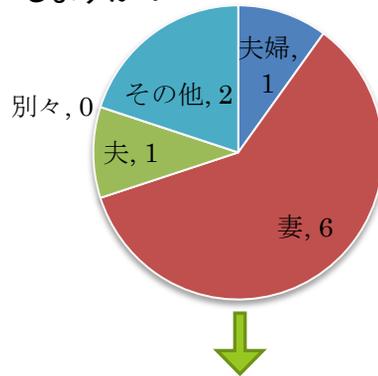
☆ふるさと納税

平成21年から導入されたふるさと納税の仕組み。年々実績が増えている。

家族構成や納税者本人の収入によってふるさと納税で控除される寄付金の上限額がある。

アンケート集計

普段の家計管理は主に誰が
しますか？



主に妻(夫)がすると答えた7名について

- ・今後はお互い協力して管理する 1名
- ・たまには家計について話し合う時間を作る 6名

- ・ライフイベント表からグラフを作る作業で少し将来のことが想像することができた。
- ・今後いつお金を貯めたらいいのか、いつ支出が増える時期が来るのか考えるきっかけになった。
- ・今回学んだことを使って家計を改めて見直したいと思った。
- ・実際に計算しながら講義内容を理解する流れであり実感としてとらえることができた。
- ・今後の家計運営に活かしていこうと思った。